



# かごしま 市民のひろば

2011年(平成23年)第534号

人とみどりが  
輝くまち  
かごしま



市の人口(推計)  
平成23年10月1日現在(前月比)

人口総数	607,955人	(+ 218)
男	281,880人	(+ 131)
女	326,075人	(+ 87)
世帯数	269,646世帯	(+ 169)



- 【主な内容】
- 市政総合…………… 2～4
    - ・新市立病院の整備状況
    - ・11月11日～17日は「税を考える週間」
  - イベント・講座…………… 5～7
    - ・第20回記念福祉ふれあいフェスティバル
    - ・実りの秋を満喫 ふるさとのまつりに出掛けよう
  - 特集…………… 8・9
    - ・みんなの元気がまちの元気笑顔で生き生き健康づくり
  - 暮らしのガイド…………… 10～12
    - ・中小企業者向け経営安定化資金
    - ・人権について考えてみませんか
  - 健康・福祉…………… 12・13
    - ・動物愛護フェスティバル
    - ・健康のための教室・講座
  - すこやか鹿児島っ子…………… 14・15
    - ・りぼんかん「あったか家族」イベント
    - ・子育て・知っ得情報

■編集と発行  
鹿児島市広報課  
〒892-8677 鹿児島市山下町11番1号  
TEL.099-224-1111(市役所代表)  
TEL.099-216-1133(広報課直通)  
FAX.099-216-1134  
Eメール  
kouhou5@city.kagoshima.lg.jp

市民のひろばは点字版・音声テープ版も発行しています  
配布を希望する人は広報課へ

■ホームページ(携帯版同じ)  
<http://www.city.kagoshima.lg.jp/>

バーコードリーダー付きの携帯電話で、右の二次元コードを読み取るとアクセスできます



■配布に関するお問い合わせ  
南日本リビング新聞社  
TEL.099-239-8124

## 「サクラジマ アイランドビュー」 で桜島散歩はいかが

桜島港から湯之平展望所などを約60分で周遊する「サクラジマアイランドビュー」は、桜島のマグマの赤と溶岩原に生える松の緑をイメージしたツートンカラーのバスです。

市営のバス・電車・フェリーが乗り放題の共通利用券「キュート」(1日券1200円、2日券1800円)も登場。市内の観光施設の割引パスポートも付いた「キュート」を使って、桜島へ出掛けませんか。



子どもにも暴力を振るって心身に障害を負わせるという信じがたい事案が増えています。その実態は家庭内の出来事であるため気づきにくく、周囲も口を挟みにくいという状況が多いようです。昨年度、本市における児童虐待相談は百五十二件に上り、身体的暴力のほか、心理的虐待、食事を与えないなど養育を放棄するネグレクトなどが報告されています。本市では児童虐待のない社会をつくるためオレンジリボン運動を展開しています。

子どもへの幸せな将来を象徴するオレンジ色のリボン。市民がお互いに子育てを温かく見守る機運と活動の輪がさらに大きく広がることを願っています。子どもは親にとって家族の絆や喜び、新たな生きがいを与えてくれる大切な存在であり、社会にとつては未来を担う貴重な宝物です。

市民のみならず、子どもを安心して健やかに育てられる環境を整備し、虐待のない社会、子育ての喜びと、子どもたちの笑顔があふれる鹿児島市を築くために、一緒に取り組んでいきましょう。



■「サクラジマ アイランドビュー」登場  
鹿児島市のシンボル桜島の観光に便利な周遊バス「サクラジマ アイランドビュー」が登場しました。桜島には、山頂を間近に臨み、錦江湾や市街地の絶景を望む湯之平展望所をはじめ、赤水展望広場、溶岩なぎさ公園足湯など見どころがいっぱいあります。これからは、桜島港から湯之平展望所までの観光スポットを自分のペースで巡ることが出来ます。また、市営のバス・電車・フェリーで利用でき、観光施設の割引が受けられる共通利用券「キュート」を使って、ますます気軽に市内観光を楽しめるようになりました。さらに海から眺望できる、好評の「よしみちクルーズ」で海と陸から普段と違う桜島の魅力をまるごと満喫することも出来ます。

これからの季節、桜島は養殖ブリ・カンパチの出荷でにぎわい、特産の桜島小みかんや桜島大根も収穫シーズンを迎えます。

新顔の「サクラジマ アイランドビュー」と「キュート」を多くの市民や観光客にご利用いただき、桜島など一味違う本市の多彩な魅力を存分に堪能していただきたいと思えます。

■広げよう! オレンジリボン運動  
今月は児童虐待防止月間です。近年、親子ともに暴力を振るって心身に障害を負わせるという信じがたい事案が増えています。その実態は家庭内の出来事であるため気づきにくく、周囲も口を挟みにくいという状況が多いようです。昨年度、本市における児童虐待相談は百五十二件に上り、身体的暴力のほか、心理的虐待、食事を与えないなど養育を放棄するネグレクトなどが報告されています。本市では児童虐待のない社会をつくるためオレンジリボン運動を展開しています。

### 市民とともに



鹿児島市長  
森博幸

(大切なものは保存しておきましょう)